

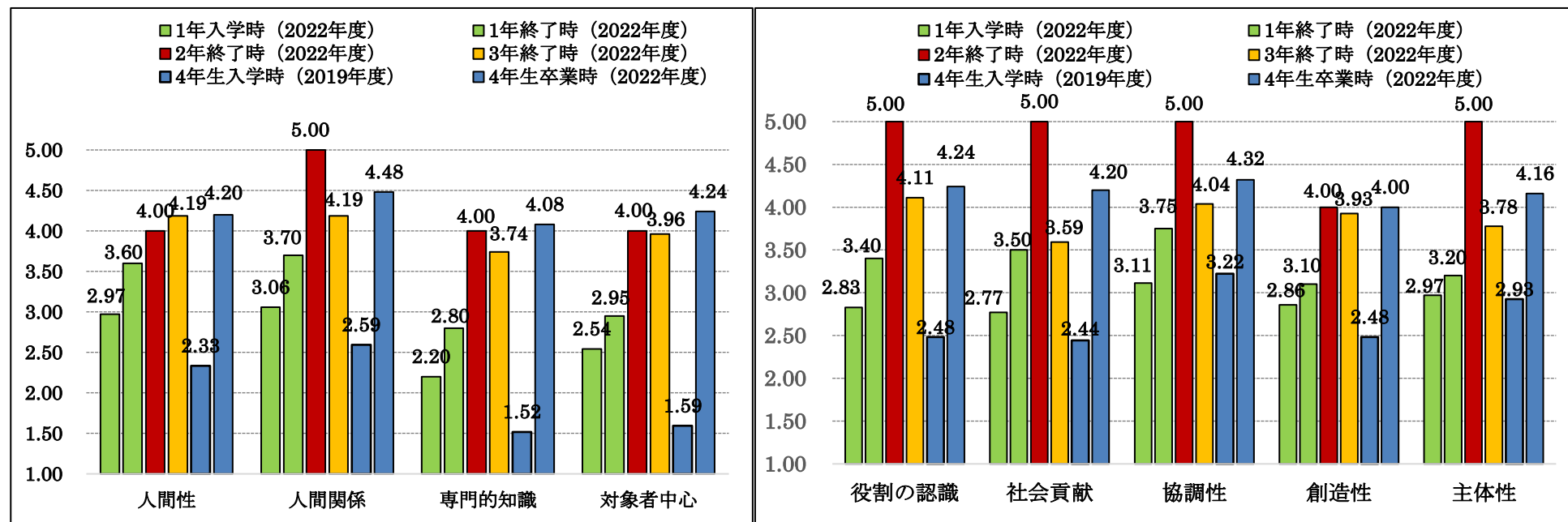
2022年度 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

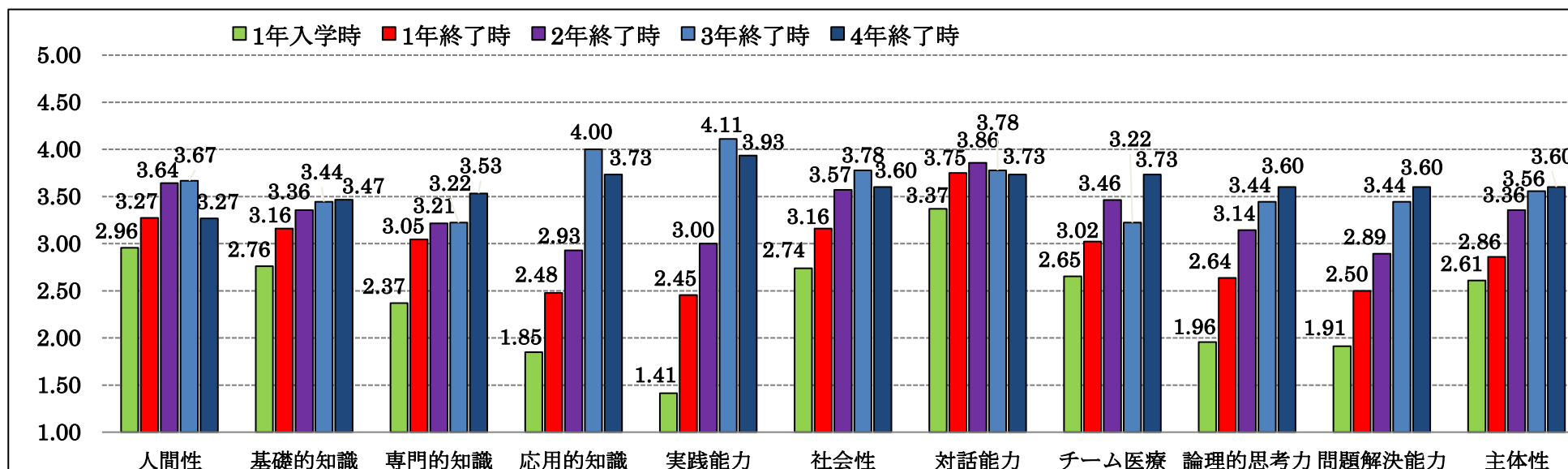
作業療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年入学時 35名（85.4%）、終了時 20名（48.8%）、2年終了時 1名（2.5%）、3年終了時 27名（62.8%）、4年終了時 25名（80.6%）。
- ・学年推移による比較の概要および前年度との比較：1年生の入学時と終了時では、全項目において上昇していた。中でも「社会貢献」が0.73ポイントの上昇と変化が大きかった。2年次以降は、2年生の回答が少ないため正確な分析は難しいが、全ての項目で1年次より3・4年次で上昇していた。ただし、3年次と4年次の差はあまり大きくなかった。1年入学時と4年終了時の差が最も大きかったのは「専門的知識」の1.88ポイントであった。これらのことから、前年度と同様に学位授与の方針は、各学年の学内授業および臨床実習を経験する中で適切に反映されているものと判断した。
- ・4年生の入学時（2019年度）と卒業時（2022年度）の比較：入学時と卒業時の変化をみると、全ての項目において大きく伸びていることがうかがわれた（1.10～2.65ポイントの上昇）。特に4年間で「対象者中心」(+2.65)、「専門的知識」(+2.56)、「人間関係」(+1.89)での成長が著しかった。



理学療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年入学時 45名（93.8%）1年生終了時 44名（91.7%）、2年終了時 28名（66.7%）、3年終了時 9名（18.4%）4年終了時 15名（32.6%）であり3・4年終了時のアンケートの回収率は低調に終わった。
- ・学年推移による比較：1年生においては入学直後であるため、応用的知識、実践力、論理的思考力、問題解決能力が低値を示している。その後、上位学年に進むにつれて、基礎的知識、専門的知識、理論的思考力、問題解決能力、主体性が段階的に上昇していることが確認された。また、各項目の伸び率については、応用的知識、実践力が2年生から3年生への移行時に高いことから、学内授業で得た知識や技術を臨床実習を経験することによって身についたことが考えられた。一方、3年生の「人間性」、「応用的知識」、「実践能力」、「社会性」に関しては、今回の調査期間が臨床実習を終えた時期であることからポイントが4年生よりも高くなったことが考えられた。ただし、本結果において3年生および4年生の回収率が低く、真摯に学業に取り組んでいる学生のみが回答した可能性があり、適切な判断および検証が困難であるため、次年度以降の回答率を上げ、分析に生かしていけるよう取り組んでいきたい。



- ・4年生における入学時からの経時的変化：4年生における1年時からの経時的変化をみると各学年に進級するに伴い確実にステップアップしていることが確認された（すべての項目で+0.90～+2.29ポイントの上昇）。4年間を通じ実施された学内外での学修機会、特に臨床実習により実践力（+2.29）、論理的思考力（+1.46）、問題解決能力（+1.15）、社会性（+1.07）専門的知識（+1.03）、がいずれも1ポイント以上の成長を示し、臨床で働く専門職として重要な知識と技術が培われたものと思われる。

